

2024.1.21

日曜日

東北支部通信

第22号

< 発行 >

公益社団法人

全日本鍼灸学会

東北支部

令和6年1月21日（日）福島県郡山市のビッグアイ市民交流プラザ7F大会議室にて、東北支部認定指定AB講座が開催されました。大寒を迎え、冷たい雨が降る日でしたが、会場には多くの方にお集まりいただき、リモート参加の方も含めると100名近くの方々にご参加いただきました。感染状況に落ち着きが見え始め、徐々に会場参加の方が増え、活気を取り戻してきているのを実感し、うれしく思いました。



特別講演1では、「家族志向の鍼灸診療～家族関係の経絡・経穴！?～」としまして、福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療学講座 助手・医師 豊田喜弘 先生にご講演いただきました。3年連続のご登壇となりましたが、毎回新たなテーマでお話いただき、サブテーマの「経絡」・「経穴」の言葉の並びに、まず心が引き込まれました。家族志向のケアに鍼灸臨床活かすため、家族関係を経絡、家族内の立場を母子関係になぞらえて作用する経穴と例え、東洋医学の見方を取り入れた家族関係のとらえ方は、興味深く新鮮に感じました。また家族関係性の解析が患者様への寄り添い方の糸口となり、治療効果を引き出すヒントにもつながるといったお話は、明日からの臨床ですぐ実践してみたいと思いました。また患者様に対する「傾聴」と「共感」について、かける言葉の重要性を再確認することができ、省察する機会ともなりました。東洋医学のセンスをみがきながら、「家族志向のケア」への取り組みについて考える貴重なご講演となりました。



特別講演2「冷え症と鍼灸」特別講演3「冷え症に対する鍼灸治療」としまして、関西医療大学保健医療学部 はり灸・スポーツトレーナー学科 関西医療大学大学院保健医療学研究科 教授 坂口俊二 先生にご講演いただきました。はじめに「冷え症」と「冷え」の違いについてたくさんの実験データをもとに、そのメカニズムから診断に至るまで解説していただきました。冷えには臨床現場でよく遭遇いたしますが、冷えの影に隠れる重篤な疾患を考慮しながら、適切に鑑別することは、

治療効果にも深く関わってくることを再確認いたしました。その冷えの分類や鑑別、評価から、治療対応や、治療穴を導き出す流れについて、エビデンスをもとにお話しいただき理解も深まりました。後半の鍼灸治療では「冷え」と「随伴症状」が、必ずしも相関性をもつ訳でなく、特に「冷え」に対しては季節に寄らず根強く、継続的な治療が必要であるとの内容は、臨床の指針につながるものと思われました。今回は冷えに対するたくさんの策を授けていただきました。特にこの寒い季節に早速取り組んでみたいと思いました。

早いもので現東北支部学術委員執行部は発足からは8年が過ぎました。この間、新型コロナウイルス感染症により集まることが制限され、リモート講習といった新たな形式を取りながら、東北に学術の火を絶やさぬよう努力してまいりました。毎回会員の皆様と画面越しでもお会いできるのが楽しみでしたし励みでありました。今年5月25日（土）・26日（日）に行われます 全日本鍼灸学会学術大会宮城大会では、学術の火をさらに大きくするべくたくさんのプログラムを企画いたしました、楽しみにしててください。そして、ぜひ、会場でお会いしましょう！

また7月7日（日）には新執行部となり、岩手県盛岡市 アイーナいわて県民情報交流センターにて、AB講座を予定しております。皆様のご参加をお待ちしております。